



株式会社大野社

代表取締役社長 **大野 光夫** 氏

創業113年を迎えた  
 全国でも数少ないフッ素樹脂成形メーカーであり  
 シール材メーカーとしても  
 幅広い条件で使用されるシール材を製造

## PROFILE

1973年神戸市生まれ。大学卒業後、96年大手特装車メーカー入社。2000年に退社して大野社に、02年経営企画開発室長兼大阪営業所、03年取締役経営企画開発室長兼神戸営業所所長、09年常務取締役を経て、14年より現職。趣味はゴルフと映画鑑賞で、休日は健康と体系維持のためにゴルフがジムで汗を流す。



本社外観

進んだりしたことから、我が国のエネルギー事情も脱原発・地球温暖化ガス削減が進められるようになりました。そのため、シール製品も、より低温・低圧・高温・高圧で使用される環境が多くなっており、従来品以上に高度な製品が要望されるようになってきました。弊社では、そうした社会的変化に対応して、神戸工場と九州工場のそれぞれで、これまで培ってきた技術やノウハウを活かし、お客様の要望に応えたシール製品を開発・製造しています。

今後も、新たな材質・加工技術の研究に取り組み顧客満足度の向上に努めていきたいと思います。

—神戸工場と九州工場では、製作しているものが違うのですか？

神戸工場では、フッ素樹脂製品・プラスチック加工・ゴム成形・グランドパッキンの製造・販売をしています。一方、長崎県佐世保市にある九州工場では、メタルガスケットや半導体・プラント設備・造船・原子力関係のSUS製缶・板金加工、レーザー加工をメインに製作しています。

—企業の方針として掲げているものはなんですか？

キャッチコピーとして「チャレンジ・スピリット」を掲げています。その精神に則り、創業以来113年わたって何にでも挑戦してきました。現在は、パッキン・ガスケットのシール材メーカーとして主力事業であるフッ素樹脂 (PTFE) の成形・加工をはじめ、PEEK材・ベスベル®等のエンジニアリングプラスチックの加工、フッ素ゴム・シリコンゴム等のゴムの成形、レーザー加工や溶接技術を活かした精密製缶・板金加工など幅広い分野を手掛けています。



フッ素樹脂機械加工現場



グランドパッキン現場

お客様から「こういうものをシールにしたい」という相談があると、フッ素樹脂をはじめ、プラスチックやゴム、金属など様々な素材を組み合わせて実現。さらに、多品種小ロットで提案し、オーダーメイドのニーズにも応えてきました。ちなみに、こうした違う素材であってもシール材を開発・製造できる会社は、国内でも数えるほどしかありません。

また、それらの加工技術を活かした様々な部品・組立品・構造物の製作も行っています。弊社では、設計部門を設けていますから、受注生産だけではなく、お客様の使用条件を聞いて、材質・形状の提案・図面作成まで対応できる体制を実現しています。

—多種多様なお客様に対応するために工夫をされていますか？

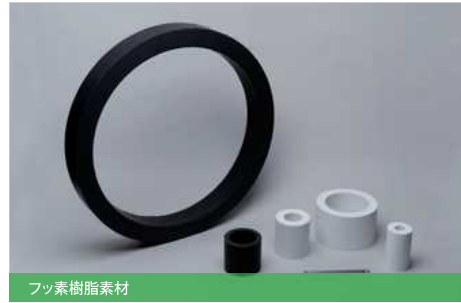
弊社の現在の取引先は、バルブメーカーをはじめ、造船会社や化学プラントメーカー、半導体製造装置メーカー、大手重工メーカー、電力、防衛関連の企業など多岐にわたっていて、契約先は約300社以上になります。それだけ多種多様な取引先があるため、注文形態も、月数万個のバルブシートの製作から1 LOT数個のメタルパッキンの製作まで多種多様です。例え多品種少量生産であったとしても、それに対応できる体制を整えているので対応が可能です。

—高い技術を維持するために御社でやられていることは？

従業員が「大野社で働けて良かった」と思ってもらえるように、社訓として『明るく、楽しく、真剣に仕事をしよう』を掲げ、真剣に仕事をしながらも、笑いも出るような会社の雰囲気づくりを心がけています。近年は約2年毎に社員



フッ素樹脂素材成形現場



フッ素樹脂素材

で旅行に行きますし、売り上げ目標を全社員に公開して、達成したなら賞与を出すことなど、出せるものは出すようにしています。働き甲斐のある環境でないと、良い仕事はできませんから。

もちろん、新しい知識や情報を吸収するために、工業会や中小企業大学等の社外研修に参加したり、外部の教育を取り入れたり、積極的に展示会に参加したりしています。特に研修会に参加すると、他の会社の人と触れ合う機会が生まれ、良い刺激になっているようです。

#### ◆今後、御社が計画している展開などがあればお教え下さい

先ほども少し触れましたが、現在、注目しているのが、阪神・淡路大震災や東日本大震災以降に変化してきた日本のエネルギー事情です。特に東日本大震災以降、日本全国の原子力発電所の大半は停止を余儀なくされていることもあり、代替エネルギーが注目を集めています。中でも、LNG等のガスの需要が高まっているため、弊社で製作しているシール材の加工も、それに対応したものを開発・製造するようになってきています。具体的には、高温または極低温に耐えられる材質などより高精度な加工が求められるようになっていて、それに応えた製品を作り出しています。

さらに近年は、地球温暖化防止のために、燃料電池に用いられる水素等のクリーンエネルギーの推進に政府が力を注いでいる状況があります。ところが、水素は漏れやすく、さらに超高压で使用されるため、シール材は鏡面に近い加工が必要になっています。高度な技術が求められるわけですが、弊社の「チャレンジスピリット」の精神を活かして、高い要求に応えています。

具体的に弊社では、時代が求める新たなニーズやご要望に応えるために、新規にレーザー溶接機や高精度精密加工機、3次元測定器・画像測定器の新規検査器などの

先端機器を積極的に導入している他、商品開発にも意欲的に取り組み、従来からの商品の提供だけでなく、新たな製品の開発・製造を行うことで、さらなる成長を目指しています。

#### ◆最後に、これからオンリーワンを目指す企業に何かメッセージがあれば

弊社の創業当時は、船舶用のグランドパッキンの製造がメインであり、その製品は三菱・川崎の両造船所に納入されたり、戦艦「大和」に使用されたりもしました。その後、お客様のニーズを聞きながら常に変革を進めることで113周年を迎えることができました。社会のニーズは、時代ごとに変わりますが、それに応じることで、きっと成長できるはず。普段目立たないような仕事であっても、誠実に仕事を続けていけば、きっと誰かが、それを評価して下さるはず。

## TECHNOLOGY

### フッ素樹脂成形・切削加工・レーザー加工等、多彩な技術力で樹脂、ゴム、金属と様々な素材のシール製品の製作を実現

#### フッ素樹脂シール材



創業以来、弊社は、シール製品を中心に樹脂、金属、ゴムなど多様な素材のパッキン、ガスケットの開発・製造を手掛けてきました。110年を超える歴史の中、常に時代の変化に合わせて技術力の向上や新たな分野への技術開発など様々な形で進化、挑戦を続けてきました。

そのように多分野への進出を進める中でも、中心事業である、フッ素樹脂、エンジニアリングプラスチック、ゴム、鉄、非鉄金属と様々な素材に合わせた設備と加工技術を磨いてきました。そして、これらの加工技術を必要に応じて組み合わせることにより、オリジナル性の高い製品の開発や納

#### フッ素樹脂原料



期短縮、コスト削減などを実現してきましたし、高い技術を要求される製品の開発にも積極的に取り組んでいます。最近では、工法提案を含めた試作支援やトレーサビリティに対応した大量生産にもお応えして、お客様から高い評価をいただいています。

このような経験と実績を活かし、これからも、お客様からいただく課題やニーズにお応えできるよう、さらなる加工技術の向上、安定品質、コスト削減に取り組んでいきます。

#### 開発に至った経緯

弊社は明治40年、神戸市の湊川で創業しました。当時、日本国内の産業はまだ発展途上であり、また外国製品第一主義ということもあって、海外の部品や製品に頼っていました。しかし弊社は、そういう時代の中、国内初の船舶用パッキンを開発し、三菱・川崎という日本を代表する造船所に採用され、やがて「旧海軍の「戦艦大和」などに用いられるまでになりました。お客様のニーズに応えた高品質なものを国産品として供給することで、当時の常識を打ち破った画期的な商品として認められたわけです。

その後も弊社は、神戸工場・九州工場の建設、外国企業との技術提携、多くの実用新案特許の獲得などの実績を重ね、着実に事業を拡大し続けて、現在に至っています。

#### 独自性

主にフッ素樹脂製品、シール製品、板金加工・製缶加工品において、様々な技術的ノウハウを蓄積しています。さらに、少量多品種生産から量産品まで一貫して行っていますし、お客様のご要望によりトレーサビリティに対応した量産加工も行っております。原料から加工、出荷まで徹底した品質管理を行うと共に最終消費者に安心した製品をお届けするため、生産管理、履歴管理の体制を整えています。

こうしたことが実現できるのも、創業から110年余りにわたって培ってきた技術に加え、現在のニーズ・シーズに応えるべく、独創の技術を加えて、ことなる素材や用途であっても、それに応じた、あらゆる産業用のパッキン・ガスケットを製造しています。

#### 今後の展開

近年では、培った技術を活用し、半導体などの最先端分野や衣・食・住などの日常生活に密着した分野への進出を図っていますし、セラミックスやエンジニアリングプラスチック・高分子機能などを用いた新素材製品の開発など、新しいフィールドも手掛けるようになりました。今後も、このように、従来の枠にとらわれない、これまでとは違った分野にも積極的に取り組んで行きます。

### 「KBMガットクランパー」を開発

大腸がんの手術に使用される腹腔鏡下手術に使われる、腹腔鏡直腸定位前方切除術(LLAR)等での確実な腸管把持、閉鎖を目的とした製品を大学と協力して製作しました。従来品に比較して小型化に成功し、また、直腸軸に対して直交方向にクランプが可能で、厚みのある腸管へのクランプも可能となったことで、売れ行きも好調。医療関係者にも喜ばれています。



KBMガットクランパー

### 「ファイバーレーザー」を導入しました

2018年約800㎡の九州工場増築工事完了後、昨年の夏に、「2kwファイバーレーザー」を九州工場に導入しました。高速切断・高精度・省エネルギーで高反射材・難加工材の高品位加工が可能で、特に薄板領域、更に銅・真鍮・アルミ等において威力を発揮しています。

これで弊社では、レーザー3台体制(ファイバーレーザー:2kw、CO2レーザー:3kw、6kw)が実現し、鉄で0.03t~32t、ステンレスで0.03t~20tの板厚に対応できるようになりました。



九州2kwファイバーレーザー加工機

## 沿革

明治40年 大野理市 神戸市湊川町にて創業  
 昭和8年 海軍指定工場となる  
 昭和24年 大野政二郎 代表取締役社長に就任  
 昭和25年 大阪営業所を設置  
 昭和27年 東京営業所を設置  
 昭和39年 現神戸工場が竣工

昭和41年 佐世保工場を新設  
 昭和56年 大野和夫 代表取締役社長に就任  
 平成7年 現九州工場完成  
 平成12年 ISO9001 認証取得  
 平成19年 創業100年を迎える  
 平成26年 大野光夫 代表取締役社長に就任

## 会社概要

所在地 〒651-1101 神戸市北区山田町小部惣六畑山5番3  
 従業員数 103名  
 電話 078-591-1051 資本金 3千万円  
 FAX 078-591-1227 設立 1943年1月  
 URL https://www.ohnosha.co.jp/ 代表取締役社長 大野光夫

## 事業概要

工業用バッキン・ガスケットの設計・製造・販売、フッ素樹脂の成型・加工、エンジニアリングプラスチックの加工、金属加工品の製造・販売、医療機器製造